

平成 22 年 7 月 8 日発行
第 152 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

「サッカーW杯 南アフリカ大会を堪能して その - 日本編 - 」 加藤寿夫

「何かあればチャンスは与えられる」と確信して、不断に取り組んできた中山雅史。その星の下に生きる男にはやはり与えられた。5月17日サッカー・W杯の日本代表入り。いつもは“笑い”と“茶目っ気”の中に正直な前向きな自分を曝け出す男が、噛み締めるように語り自らを分析するとき、涙が浮かぶ、
中略

自らを“下手糞(へたくそ)”だが、“我武者ら(がむしゃら)”さだけは負けないと語れる中山雅史。チーム最年長34才のサムライは自身を闘魂の化身としてフィールドに立つ。

『日本隊長 背番号 ゴン中山と 第17回ワールドカップ(W杯)』康寿診報 第61号(2002.6)より抜粋

(第一に) 岡田武史(53)監督の選択、結果的にはこれで良かったとされるが、日本の守護神的な魂の拠り所となれる人物 キャプテンは 小野伸二ではないかと思った。オランダ監督が何故小野が招集されていないのだ? との発言。リーグ 清水エスパルスで示して欲しい。岡田監督の大きな決断、中村俊輔、岡崎慎司を先発から外し、本田圭佑をワンプップFWとして使った事、勝つ為の大きな賭けに勝てたとも言えるのではないか。

(第二に) 予選第一試合 カメルーン戦(6/14)、本田のトラップミスでも足元に落ち蹴り込んだゴール、何かを予感させる 岡ちゃんを最高に喜ばせる一発であった。

(第三に) 予選第二試合 オランダ戦(6/19)、狡猾 ラブプレーで知られる強豪チームに対し、0-1 予選リーグ 勝ち点3をものに出来ればのオランダの思惑もあって、良くぞ守って、最終戦に望みを託しての、夢を大きく繋ぐ一戦であった。

(第四に) 予選第三試合 デンマーク戦(6/24)、本田・遠藤保仁のFKの2点 これは今大会で日本が一番に誇れるものであろう。更に、本田が岡崎に試合前に話した言葉 内に秘めた彼の人間性が込められていたように思える岡崎の3点目。これで 自国開催以外のW杯で初の決勝トナメント進出となった。

(第五に) 決勝リーグ 初戦 パラグアイ戦(6/29) 良く守り良く攻めて120分0-0でのPK戦 4人目死力を尽くして守備に攻撃に走り回って、フルで4試合を戦った右のDF駒野友一のキックは左上知バ-を直撃 万事休す。PK戦は残酷な結末を誰かに負わせる代物である。この悔しさは、ジユビロ磐田の背番号 として、はたしいて欲しい。

(最後に) 結果良ければ全て良し、秩序ある守備で体格差・個人技を補うアイデアで、世界とこの様に戦う事が出来た、最高の成績を収めたといえるのではないか。

日本には“侍ジャパン”と呼ばれるようにその魂が宿っている。W杯最初の得点は12年前「魂はフランスに置いてきた」と発言した三浦知良を岡田監督が戦力外としたフランス大会 敗退が決まったの予選第3試合 ジャマカ戦(1998.6.26.) ゴン中山雅史の得点であった。得点後背番号 の下にはカズのエピソードを見せつけた。この後 右腓骨骨折にもかかわらず 何度も全速でゴール前に迫る姿には頭が下がった。今大会 優勝候補ブラジル ドュンガ 監督が日本人魂を世界最高峰の高いレベルの中に持ち込もうと 規律を重んじ奮闘しているが、このような伝統は歴史の中に刻まれていく事柄でデュンガであるから成しうる“事” ただし一筋縄ではいかない“事”であるようにも思う。 2010.7.1.

『心ひろば』の存在意義を問うてみて - その 4 (最終章として) -

【文面】

前回 榊原医師会報 “心ひろば” に 5 月 21 日付で 『心ひろば』 の存在意義を問うてみて」と題して投稿してから一カ月、2010 年 年初 “心ひろば” の存在価値を問うてみて【文面】の問い掛けから始まった一連の件につきまして、私の精神精励の姿勢に対して、医師会としての適切な対応を求めまして、最終的・総括的な投稿をさせて戴きます。

一連の出来事を知らない方にも、今回の件に付き “事” の起こりをご理解いただけるよう簡潔明瞭に提示しております。見解をいただいた上で、医師会の在るべき姿勢 そして私自身にもアドバイスいただければ、意義のあるプラスとなる本筋の仕事が成されたと理解出来るのではないかと考えております。

過去 3 回の私の投稿内容にもあった今回の一連の件につきまして、有り難くも榊原医師会を始め医療福祉に関わる方は無論 行政・司法・政治等多方面の専門の方にもアドバイスをいただきましたが、皆さまが私におっしゃられることは総じて、平成 22 年 1 月 25 日の夜 榊原医師会役員会の後で推敲を重ね書き上げた 私の投稿しました【文面】に対して、大川雅龍氏が “掲載不可の旨” を述べた内容「平成 22 年 2 月 9 日に大川氏が編集委員長の立場として私に提示された【文面】を読んでみない事には、私の主張するところがよくわからない」というものでした。

2 月 22 日、3 月 29 日、4 月 19 日の役員会などで議論の場を設けていただけるようたびたび提言したもののそれについて何のご返答もいただけない状況にあり、さらには、おそらく事の全容を知っておられないであろう一部の先生より、3 月 15 日の吉田・榊原連絡協議会の場で何故か私が叱咤を受けてしまうという衝撃的な事も起こりました。

私も自分自身の位置を確認するために、専門家の方々にも相談してまいりましたが、総じて 「編集委員長として個人を誹謗中傷する文面を送付した事」 それについて質問するも何の返答がない事、「送付された文章の公開の制限を強要する事」などについては、おそらく一般的に納得し難いことであろう、との指摘をいただきました。

しかしながら、3 つの “事” を受けて 私もあれこれと試行錯誤しましたが、やはり私の目的とするところはお金や名誉などではなく、あくまでも 『心ひろば』 の存在価値を問うてみて」で述べた通りですので、前回に引き続き、今回も何かしらの他力に頼ることなく、直接 “心ひろば” を通して最終的に良い結果を出していきたい、と考えております。

今回の一連の件での、編集委員会の先生方をはじめ何度も文面で正確にお伝えしましたが、訂正すべき問題は 「己の “文責” を放棄して、編集委員会、更には 医師会役員会、医師会執行部に、責任転換をしてきた行為であり、これを擁護する医師会の体質である」と、何人かの専門家の御意見をいただいた上で 解釈しております。

そこで、私の行動における全容、私が何を把握し申し上げたいかを知っていただき、公平な立場で原点に立ち理解いただくために 「オープンにしないことが文責である」とおっしゃられた 編集委員長 大川雅龍先生の名のもとに 2 月 9 日に私宛てに送付した文面を、何人かの専門家と打ち合わせた上、必要不可欠の事柄として、ここに公表いたします。

この大川先生より送られた書面【文面】の内容に対しては、翌日 2 月 10 日にも再度質問や意見を書面【文面】として作成し、急ぎ送付いたしました。しかしながら、それでも私の提示した疑問や意見については大川先生の編集委員長としての何の返答もなく、最後には 文責 という名の下に、それすらもなかったように扱われてしまう。これは文責のみならず、編集委員としての責任さえも曖昧にさせてしまうのではないかと私は考えます。

今回と同様の出来事は、“心ひろば” 第 346 号(2007 年 8 月 発行)に 理事として投稿した 『地域住民の本物の自立と “健全な健康” を第一義に』の際にも起こっており、三者三様が私に愛情？を注ごうとしてズタズタになった 私とはまったく別人の 誤字のある文面が 了解も無く、私 理事 加藤寿夫の名のもとに 掲載されました。

【詳細は 康寿診報 121・122・137 号参照】

以前の私にはこれらの “事” までも 「喜んで・笑いながら・楽しく 受け入れてしまえ！」との思いから、自分を抑え享受している自己も、時と場合によって存在させていたのですが...

この思いもズタズタにされました。経緯・責任は曖昧にされたままです。

無責任な“文責”、これを責任も無く組織 医師会の名のもとに責任を執る人間不在のまま擁護する、このような姿勢が私 加藤寿夫には許せません。

大川先生が私に宛てた文面の中に「私は物事を成すためには、相手の立場を理解し、良好な信頼関係を結ぶことこそがその近道と考えております。敵対し合う関係で、ことがスムーズに運ぶのはありえないと思っております」また「一方的に意見を押し付けるのではなく、お互いにそれぞれの集団の意見を持ち寄り、歩み寄りながら、例え、それが自分の考えと異なっても、今より少しでもよい方向に持っていこうと努力することこそが、集団を代表するものの役割と考えるのですが如何でしょうか」とあります。

私もそのように思います。だからこそ「ただ何かを受協するのではなく、ただ敵対しあうのではなく、責任ある立場としてお互い納得のいくまで意見の交換し、双方が良い方向を以て理解し、前進していくことが重要である」と考え、今まで何度も文面を提出してきたのです。

【『心ひろば』の存在意義を問うてみて 2010.5.21.投稿内容より抜粋】

榎原医師会「開館 40 周年記念誌 はいばら(2010.3.31.発行)」に掲載された、前会長小田原秀真先生の「一般社会の変化のスピードに遅れないこと」「医療情報を早く会員に知らせること」「決定事項は多くの会員の意見を聴くこと」この 3 つの基本事項。今となり、前会長の成されてきた“事”として“確”と受け止め、偉大さに敬服いたします。

これは、榎原医師会の今後の展開において大変重要な“事”であります。私もそれにならい、不器用でありながらあれこれと思索を重ね、榎原医師会のために努めて、理事を終えた思いでございます。

多くの先生の見解やお考え、そして新しい情報や問題点などを効率的に集約・検討し、それを地域医療に良い形で反映させるためにも、高木平新会長先生には是非、この部分を強くご留意いただきたく思います。

【榎原医師会会長 高木平先生氏に宛てた文面 2010.5.19.より抜粋】

私も榎原医師会理事としての“責”を終え、今は一医師として、所属する榎原医師会を応援する立場 見守る立場にあります。榎原医師会および“心ひろば”は「進化させなくては生けません」そして「進化の過程にあります」、閉鎖的な医師会では進化・発展は望めません・果せません。榎原医師会および“心ひろば”、そして榎原地区の医療の今後に責任を持つ立場にある方々に、ぜひ私の意を汲み取り、適切なご返答をいただきたく思います。まずは私のこの“魂”からの投稿を 受理して下さい。よろしくお願い致します。

最終章を書き終えて 平成 22 年 6 月 21 日 加藤寿夫

P2,3 の文面『心ひろば』の存在意義を問うてみて - その 4 (最終章として) - について、先日 7 月 6 日、何の説明も無く、掲載不可の知らせの文面が、責任者 無記載 榎原医師会編集委員会の名の下に届いた。これが、自己にとって心身共にズタズタになっている“事”、やはり相手に対し直接話し合う・交渉の場を持つしかない、これに応じなければ文面で伝える、必要に迫られ何度繰り返してもこれに応じない時は如何するか？出来る事はすべて遣り尽くした上で、思索している。ここまで相手が鈍感な事に愕き 嘆きながら…、

今現在の周囲の目を気にする事では無い、自分の行動が 3 年 5 年 10 年後 先を見詰めて 間違いが無い様に 今行動する事である。

時間の無駄・浪費では有るが、法の下に相手を問い質す。

自分の腹の中に納め、相手に 3 度と同じような行為はさせぬよう十分に牽制した上で整理整頓した上で、終わりにする。

私の“魂の叫び”に対して無言(ダンマリ)で抹殺しようとの考えが間違えである。これに対して、の選択肢と考えているが…、間違って暴徒化していると見る周囲の目。

「『世間一般からみると他人の揉め事は“蜜の味”を 好奇の目で 笑いながら ゲーム感覚で楽しんでいるだけよ…」との 友のアドバイスに感謝。しかし、50 歳に成るまであと半年、3 年後のスパークの為に、今の自分・自己から、正確に 可能な限りの力で 物申してみる。事の詳細は 己でマネジメントする。

前回 康寿診報 第 151 号 P2,3 そして今回 第 152 号 P2,3 は 大川雅龍氏個人に対する何度にも及び訂正の申し入れ、更には 榎原医師会 編集委員会の皆様への問い掛け 最終的には【文面】提示の上に掲載しております事を、申し伝えます。

《勉強会のご案内》

毎月通常の勉強会は原則第3土曜日 13:00 から開催です。
都合の付かない方には、ビデオ・DVD 学習をお勧めします。

8月21日(土)	薬物療法について
9月11日(土)	低血糖について
10月9日(土)	第81回 睦会
11月13日(土)	運動療法について
12月4日(土)	インスリン療法について
1月15日(土)	糖尿病とは

8/21は、新薬についてもお話します。

《診療案内》

毎日朝 8:00より5分間 阿波踊りの練習をしております。是非御一緒に！

診療時間	月	火	水	木	金	土
8時～12時						
15時～18時						

受付最終時間 厳守 とさせていただきます。

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:30 からです。
午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。
休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

ビデオ・DVD 学習は、個人の希望にも随時応じております。希望される方は、職員まで申し付け下さい。
今月「第81回睦会」は、“糖尿病治療のABCを求めて”を今後数年のメインテーマに、本院の糖尿病治療の実際そして治療を良い状態で継続させる為には何が必要か、皆さんと共に考えてみたいと思います。
杉山晴子管理栄養士による「加藤さん家の食卓実習」調理実習を 8/21(土)・9/11(土) 9:30～12:00 実施します。食材費 500 円で プロのテクニックを自分の食卓へ応用して下さい。詳しくは栄養士杉山へ。

《各種ワクチン接種について 本院の考え方と実際》

本年度より、吉田町をはじめ榛原南地区では、小児のワクチン接種について、厚労省をはじめとする国の方針により“二種混合[麻疹・風疹(=MR)]ワクチン”“三種混合[ジフテリア・百日咳・破傷風(=DPT)]ワクチン”が、集団接種を取りやめ、個別での接種対象となりました。今後、更に個別の接種対象となるものが増えていくようです。来院にて(カルテのある方は電話予約でも可)予約の上、市町村からの書類を持って受診して下さい。本院では、可能な限りの利便性に配慮し、特別な理由が無い限り 診療時間内に個別に予約時間を決めさせていただき対応しております。

更に 本院では 小児に対しての“H i b [=インフルエンザ菌(=Haemophilus influenzae) b 型]ワクチン”“小児肺炎球菌ワクチン(プレベナー)”“子宮頸癌予防[=HPV(=ヒトパピローマ ウイルス)]ワクチン”の自費接種をすすめております。

《本院での自費接種可能なワクチンと価格》 下記は本院での接種費用で他院とは異なります。

肺炎球菌ワクチン・・・8,000 円	吉田町では 70 歳以上の方は個人負担無し(無料)
破傷風トキソイド・・・4,400 円	
日本脳炎(ジェービック V)・・・8,200 円	
A 型肝炎・・・6,000 円	B 型肝炎・・・7,200 円
H i b ワクチン・・・7,000 円	小児肺炎球菌ワクチン(プレベナー)・・・9,500 円
子宮頸癌予防[=HPV(=ヒトパピローマ ウイルス)]ワクチン・・・48,000 円(3 回接種の費用)	

は 4 週間あけて 2 回の接種が必要。
は 生後 2 カ月からの接種が推奨される。年齢により 1～4 回の接種が必要。
なお は 1 回接種の費用です

《肺炎球菌ワクチン予防接種のお知らせ》

今年度も、吉田町では独自の助成があり、6月より 70 歳以上の方は接種代金 ¥8,282 の全額町の負担。個人負担無し(無料)で行なわれます。保健センターにて助成券を受け取った上で受診して下さい。他の市・町の一般の方は ¥8,000 にて実施中です。

《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないように 気を付け下さい。

7/23(金)・24(土)・26(月), 8/14(土)・27(金)・28(土)は 休診です。